

4.7 断熱材の割付

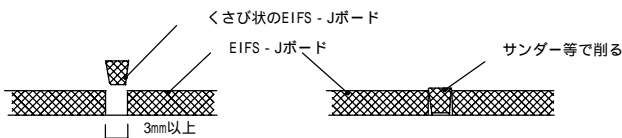
- a. 真物のコーナーエッジを活かすように割り付けること。
- b. 開口周囲には防火処理工が来るため、約10mm以上の空きを設けること。
- c. 開口の端部と断熱材の端部が一致しないように、断熱材は「コ」字 「L」字のカットをすること。
- d. 断熱材の切断はカット台等で狂いのないよう切断すること。
- e. 小さな範囲の切断の場合は、ホットナイフを用いる事が好ましい。

4.8 断熱材の貼りつけ

4.5の接着樹脂モルタルを断熱材裏面に櫛目状に塗る。下地面に直接、ベースモルタルを塗ってはならない。断熱材はやり違いに貼ること。断熱材は左から右へ、下から上へ木鏝で押さえて凹凸がないように外壁面に貼ること。

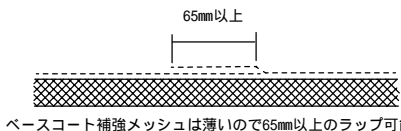
4.9 断熱材貼り付け等の補修要領

- a. 基本は、すき間なく断熱材を貼るが、すき間が出た場合くさび状のEIFS-Jボードをすき間に埋め込む(絶対にベースモルタルを、埋め込んではいけません。)



4.10 接着モルタル被覆とグラスファイバーメッシュ貼り付け

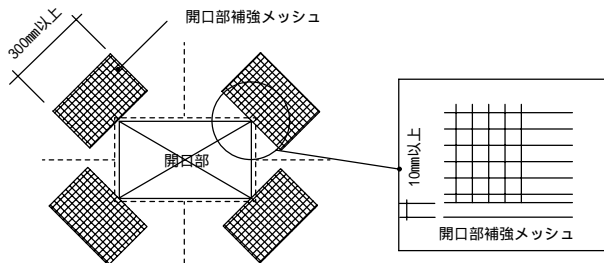
- a. 断熱材の上に接着樹脂モルタルを約2.5mmの厚さに塗布する。
- b. ベースコート補強メッシュは、65mm以上の重ね貼りとする。(65mmのラップが無いとクラックの原因になる。)



- c. メッシュパターンが見えないような厚みとする。
- d. 出隅部は、グラスファイバーメッシュを2重貼りとし、ラップ長さは200mm以上とする。
- e. 養生時間は作業環境温度、湿度、使用する接着剤の仕様で異なるので注意のこと。(一般仕様は24時間、オプション仕様は3~7時間程度)
- f. 耐衝撃用メッシュは、メッシュが厚いので重ねてはいけない。

4.11 開口部廻りの処理

開口部周りの躯体面4階面に補強用のグラスファイバーメッシュを貼り付ける。補強メッシュの長さは300mm以上とする。



4.12 階段面の処理

- a. 階段踏面・蹴上面より25mm以上のクリアランスをとる。グラスファイバーメッシュは歩行者が蹴っても傷つかないように、EIMA規格4等級メッシュを貼るか全面EIMA規格3等級メッシュを貼ることを推奨する。

4.13 貫通部・埋め込み部の処理

貫通部廻りの躯体面に補強用グラスファイバーメッシュを貼りつける。補強メッシュの幅はオーバーラップ6.5+6.5=130+50=180mmとなる。

4.14 目地

- a. EIFS-Jボード上への目地は、V型、U型、又は目地幅も自在に調整し、作ること。なお、EIFS-Jボードの残り代は20mm以上を確保すること。
- b. 幅150程度のメッシュを目地に埋め込み、65mm以上のラップを設けてベースコート補強メッシュを貼りつける。
- c. 壁面目地の施工は目地部を先行し、その後一般部を施工する。

4.15 エクспанションジョイント

- a. 異種構造を跨ぐ場合など変位差の大きい部位にはエクспанションジョイントを設ける。なお、特記なき限り湿式外断熱工法は構造目地(構造スリット)を跨いで施工して可とする。
- b. 目地内部の断熱材小口にはバックラップを設けること。
- c. 目地内部は、ベースコートのみで仕上げは行わない。仕上げ前にはベースコートに、メーカー指定のプライマーを塗布し養生する。

4.16 模様下地

メーカー規定の施工要領による。

4.17 鏝による仕上げ(フィニッシュコート)

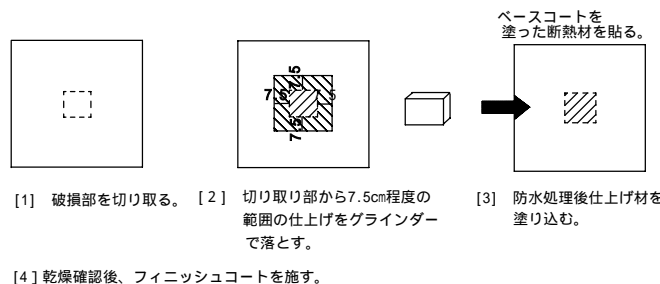
- a. ベースコートの乾燥及び、表面の平滑性を確認する。特に、メッシュの織目模様が生きていないかを確認すること。不陸がある場合は必ず手直しをすること。
- b. フィニッシュコートを、パドル式のみキサーを用いて色が均一になるまで、混ぜ合わせる。攪拌のし過ぎやパドル式以外のミキサーを使用すると空気を混練し、製品の性能や作業性を低下させ、色むらを生じさせる可能性がある。作業性の向上のために水を加える事ができるが、一缶当たりの加水量の上限は200ccまでとする。暗い色や特別な色は上記のように混合し、10~15分後再度混ぜ合わせる。
- c. 施工技術者は、同じ工具を使用し、鏝さばきを同じにして均一の仕上がりとなるようにすること。
- d. フィニッシュコートは上階から下階に向かって施工すること。

4.18 スプレー/ローラーによる仕上げ

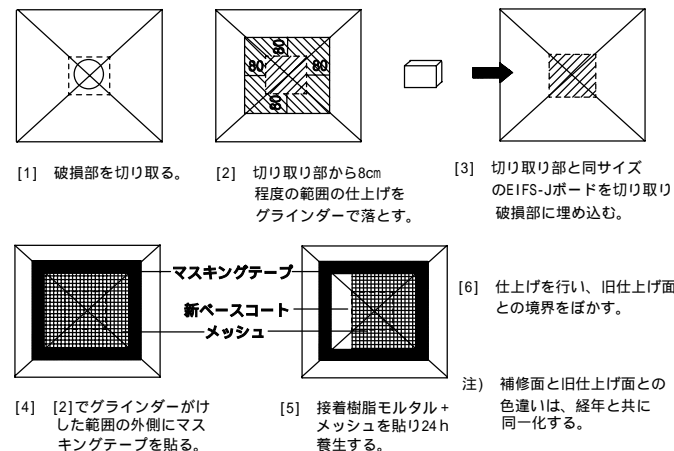
メーカー規定の施工要領による。

4.19 仕上げ終了後の補修方法

(ベースコートによる補修方法)



(比較的大きな損傷部の場合)



5. 保護

5.1 一般事項

- a. 隣接した場所や塗材が損傷を受けたり、それらの上に飛散したりこぼれたりしないようにする。
- b. 施工後、乾燥するまで天候および他の損傷要因から守ること。その為に防水シートやプラスチックを使用の際は、結露または、高温にならないようにする。

5.2 資材の保管条件

材料	荷姿	温度条件	湿度条件	日射条件
ポルトランドセメント	紙袋入り	涼環境	多湿・雨がかり厳禁	直射日光不可
BC用接着材	缶入り	4 以上35 以下	特になし	直射日光不可
EIFS-Jボード	重ね積み	特になし	雨がかり厳禁	紫外線不可
グラスファイバーメッシュ	ビニール梱包	特になし	雨がかり厳禁	直射日光不可
仕上げ材	缶入り	4 以上35 以下	特になし	直射日光不可

6. 検査

6.1 一般事項

- a. 検査は、あらかじめ定められた項目、方法により行う。
- b. 検査の結果、発見された不良箇所は速やかに補正を行う。但し、重大な不良箇所の処置については監督員と協議する。
- c. 監督員の要請があった場合、検査記録を提出して監督員の承諾を受ける。

6.2 検査の項目

- a. 外観チェックにより検査を行う。サッシュ、バラベットなどEIFS-Jボードなど他の仕上げ材等が接触する部位の納まりに特に注意し検査する。
- b. 足場を解体して清掃する。足場の取り外しには、仕上面を傷つけないよう心がけること。

7 断熱材廃棄物処理

7.1 一般事項

- a. 施工現場で発生する断熱材端材・廃材の処理について、溶剤によるリサイクル処理を推奨する。
- b. 断熱材廃材溶解用溶剤の取り扱いには十分注意すること。